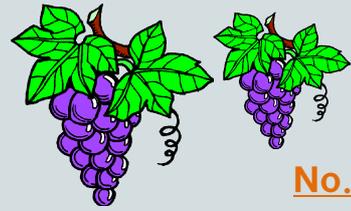


# 特別養護老人ホームの ユニットケアとは

日赤鶯鳴荘機関誌「うぐいすの声」折込資料



No. 2

★（ご家族） 前は、園長さんから施設建替え後に導入するユニットケアとは何か・・・というお話しをお聞きしましたが、そもそも「これまでと」どう違うのですか？

◆（園長） はい。日赤鶯鳴荘でのこれまでのケア（お世話など）のすべてを変えるというわけではないのですが・・・。ユニットケアでは、日赤鶯鳴荘の一日の流れに利用者の皆さんの生活を合わせるのではなく、利用者の皆さん一人ひとりの暮らしに合わせたお世話や支援を行うことが基本となります。このことをご説明させていただきたいと思います。

## Q3 ユニットケアでの利用者の食事、入浴、排せつなどは、 これまでとどう違うのですか

A

園長がお話したように、ユニットケアでは、施設の一日の流れに利用者の生活を合わせるのではなく、利用者一人ひとりの暮らしに合わせた支援を行うことが基本となります。

ユニットケアが大事にしているのは次のようなケアです。

- 1 寄り添うケア
- 2 その時の様子に合わせたケア
- 3 家庭的なケア
- 4 こころに寄り添うケア

こうしたケアのあり方を踏まえながら、ユニットでの、利用者の一日の生活を見てみましょう！

### ➤ 起床・就寝

起床時間は、個人の生活パターンによって異なるものですから、あくまで、利用者自身が決めるのが基本となりますので、早く起きたり、食事の時間ぎりぎりまで寝ていることもできます。就寝時間も同様です。

### ➤ 食事・ティータイム

食事の時間やティータイムは、ユニットごとに少人数で一緒に取ることが基本となります。

お話しやコミュニケーションがはずむ機会にもなり、お互いに信頼関係が生まれ、ユニット内で生活を共有することができるようになります。

ティータイムは、利用者が自分の好きな飲み物（お茶、紅茶、コーヒーなど）を好みの器で楽しむことにより、心地よい時間（次頁へ）



介護長  
4?歳

ユニットでは、「昨晩は、遅くまでテレビを楽しんで見ていたので、今朝はそっとしておきましょう」などといった細かな配慮がしやすくなります。

また、食事は、スタッフと一緒に準備や後片付けをしてもらったり、利用者の方にもできるだけ参加してもらいます。

昼食時は、スタッフと一緒に食事しながら、会話はずみ、特に夕食は、ゆっくり時間をかけ、今日一日の出来事を語り合うことで、利用者の皆さんに安堵感を与え、明日への英気を養い、生きる糧となって安眠へとつなげたいと思います。

を過ごすことができます。時には、手作りのおやつを添えて語り合うのもいいのではないのでしょうか。（ユニット毎に自由に使えるユニット費というお金があります。）

### ➤ 入浴

入浴については、身体の清潔の保持はもちろんですが、利用者が気分をリラックスさせることができるよう、ゆっくり時間をかけてマンツーマンで介助を行います。お風呂は、家庭用の個人浴のほか、車椅子や腰掛タイプの間接浴、寝たまま入浴する機械浴を用意します。湯上りには、一緒に飲み物やデザートを楽しむこともできます。

### ➤ 排せつ

利用者が心地よく排せつできるよう、一人ひとりのリズムに合わせて介助を行うとともに、プライバシーに十分配慮します。

今後の基本設計で十分検討しますが、今のところ、個室毎に手洗いとトイレ（少なくとも2室に1か所以上）を設けたいと考えています。

このように、ユニットケアは、一人ひとりの生活を大切にしたい個別ケアを目指していますので、スタッフの意識改革なしに実践できません。

このため、日赤鶯鳴荘では、昨年度から日本赤十字社直営のユニット型特別養護老人ホーム（レクロス）に職員4名を長期派遣して実体験型研修を行うとともに、県内外のユニット型特別養護老人ホームに多くの職員を短期研修派遣しています。

また、ユニットリーダー養成研修にも、職員を派遣してユニットリーダーの養成に努めています。



生活  
相談係長  
5?歳

職員が「一人ひとりと向かい合った寄り添うケア」を行っていくと、これまでの多床室ではプライバシーを守ることができず、同室者に気兼ねしながら生活しなければならないという利用者の現状に気付かされると思います。

このため、その人らしい生活の場を保障するためには個室化が重要な柱になってくると思います。

私たちは、個室にすることにより、利用者は誰にも気兼ねせず自分のペースで生活ができ、今までの生活習慣を維持することが出来ると思います。

夜間に同室者の排せつ介助などで睡眠を分断されることもなく、睡眠と覚醒のリズムが確保されることになると思います。

ユニットケアの目指すものは、施設に入所しても、人間としての尊厳が守られ、家庭や地域の中で送っていたその人らしい生活がつづけられるようにしていくことにあります。

